



子育てに関する情報発信のあり方について

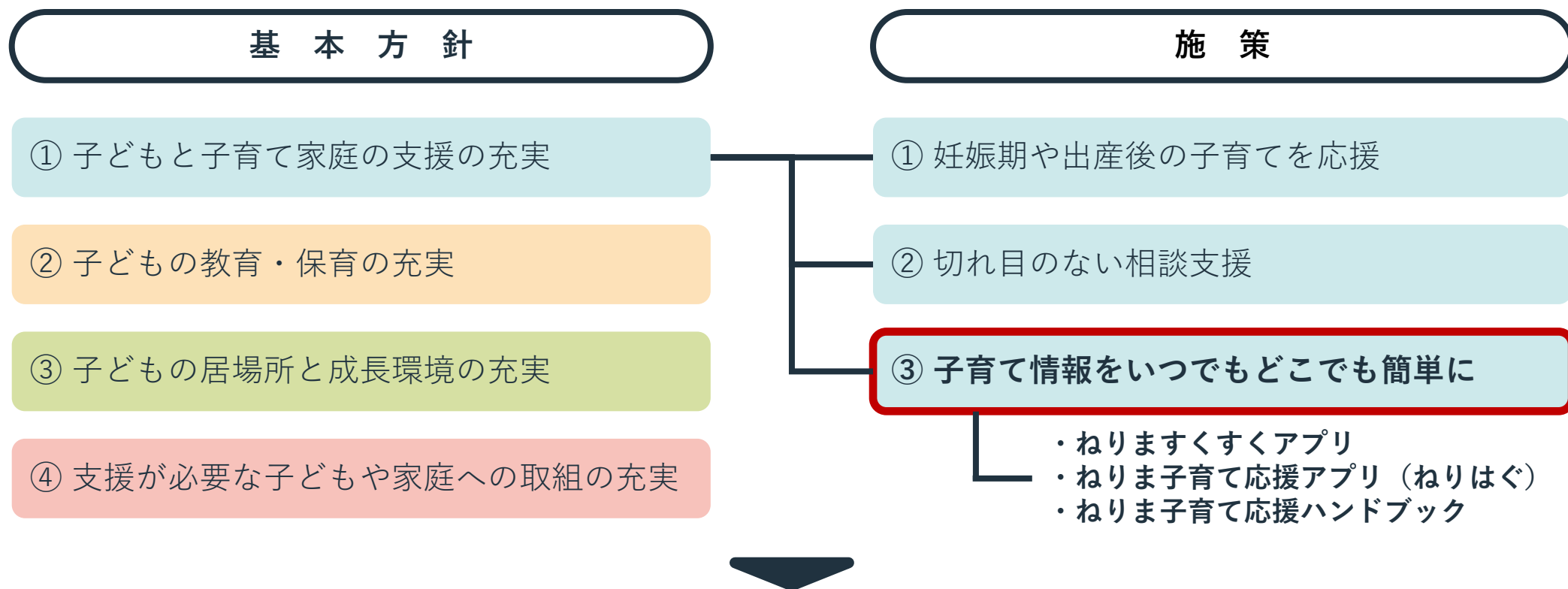
令和7年11月4日

こども家庭部こども施策企画課

1 子育てに関する情報発信の取組

- 核家族化の進展、共働き家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境は多様化
- 心身の負担が特に大きい妊娠・出産・子育て期は、不安感や孤立感を抱えやすい傾向
- 子育て家庭に必要な子育て支援情報を、**個々のニーズに合わせてタイムリーに届けることが重要**

【第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画】



安心して子どもを産み育てられ、子どもたちが健やかに成長できる環境を整備

1 子育てに関する情報発信の取組

区は子育てに関する情報をどのように発信しているのか



ねりま区報



区ホームページ（年齢別検索やキッズページなど）



事業紹介冊子、パンフレットなど



SNS・アプリ

X

- ・東京都練馬区（区公式X）
- ・練馬区立幼稚園
- ・練馬区立児童館
- ・練馬区立子ども家庭支援センター

LINE

- ・練馬区（LINE保活支援サービス）
- ・ねりまホットアプリ+
- ・練馬区ささえーるLINE

YouTube

- ・練馬区公式チャンネル
- ・練馬区立小中学校・幼稚園公式チャンネル
- ・練馬区立図書館公式チャンネル
- ・練馬区立児童館・学童クラブチャンネル
- ・練馬区保育園チャンネル

Instagram

- ・ねりすたぐらむ（練馬区広報担当）

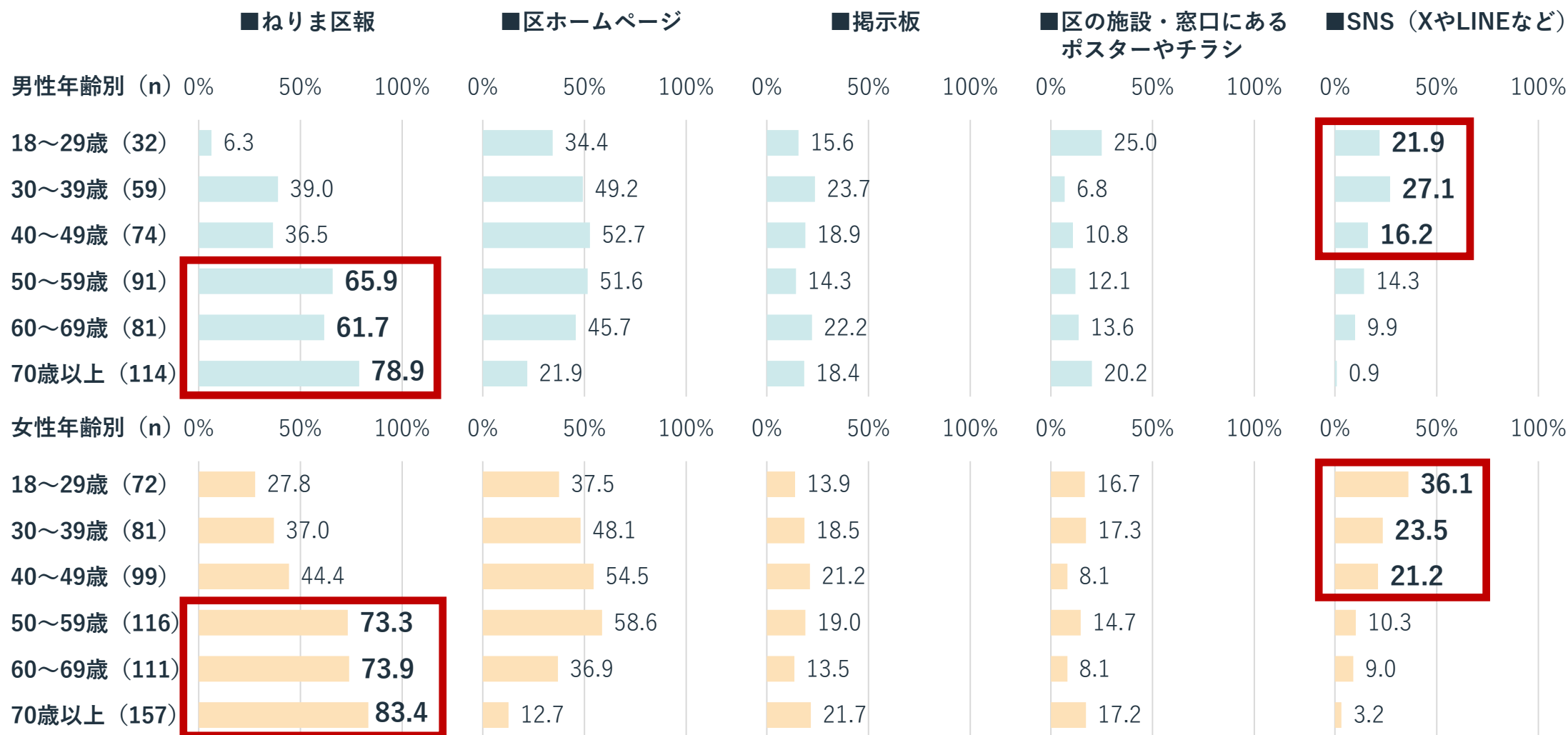
区公式アプリ

- ・ねりますくすくアプリ（電子母子手帳アプリ）
- ・ねりま子育て応援アプリ（ねりはぐ）



2 令和6年度区民意識意向調査結果

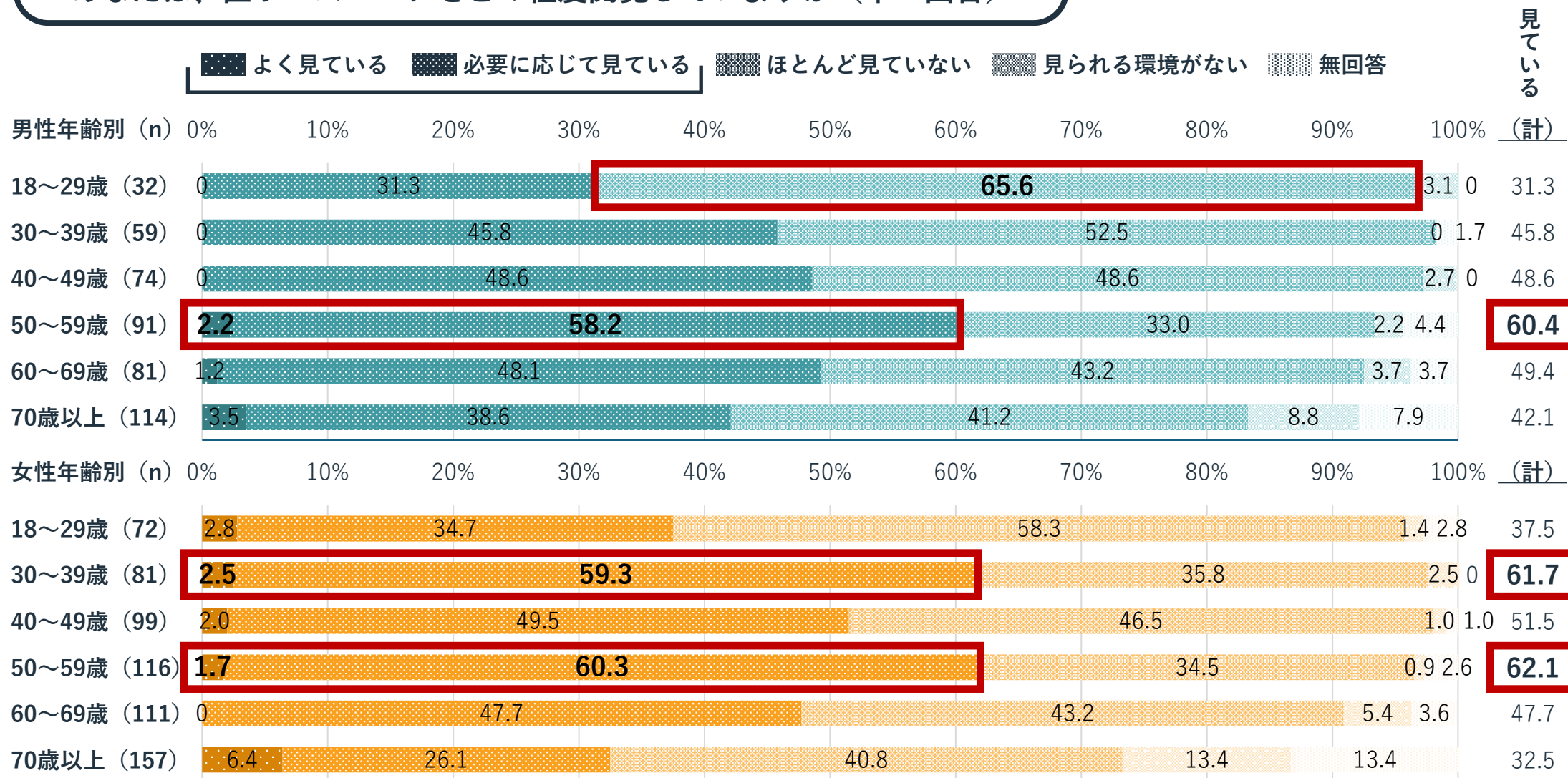
あなたは、区政の情報を主に何から入手していますか（選択は3つまで）



- 「ねりま区報」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が多くなっており、女性70歳以上で8割を超えている。
- 「SNS (XやLINEなど)」は男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が多くなっており、女性18～29歳で3割半ばとなっている。

2 令和6年度区民意識意向調査結果

あなたは、区ホームページをどの程度閲覧していますか（単一回答）

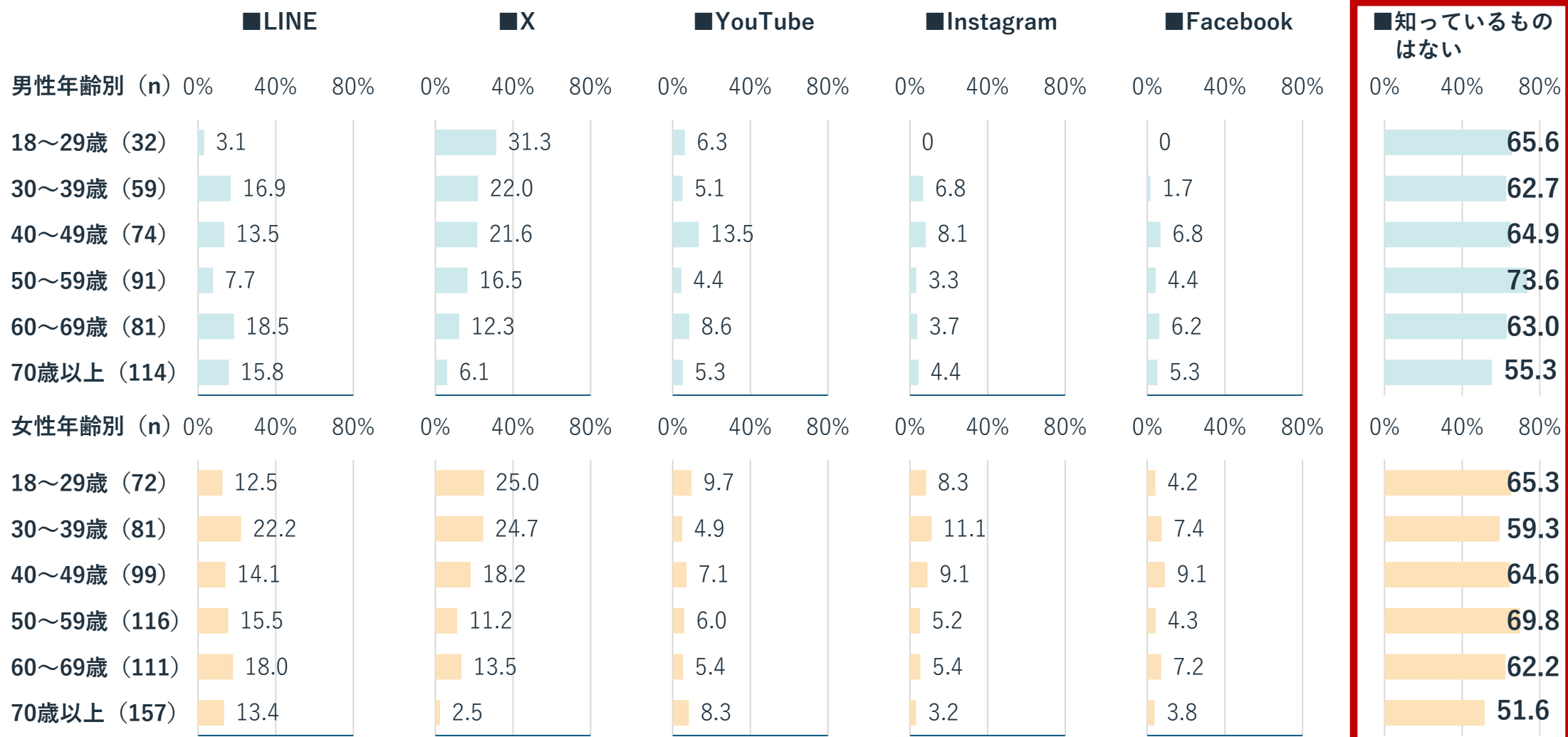


● 「見ている」は女性30～39歳、男女ともに50～59歳で6割を超えて多くなっている。

● 「ほとんど見ていない」は男性18～29歳で6割半ばと多くなっている。

2 令和6年度区民意識意向調査結果

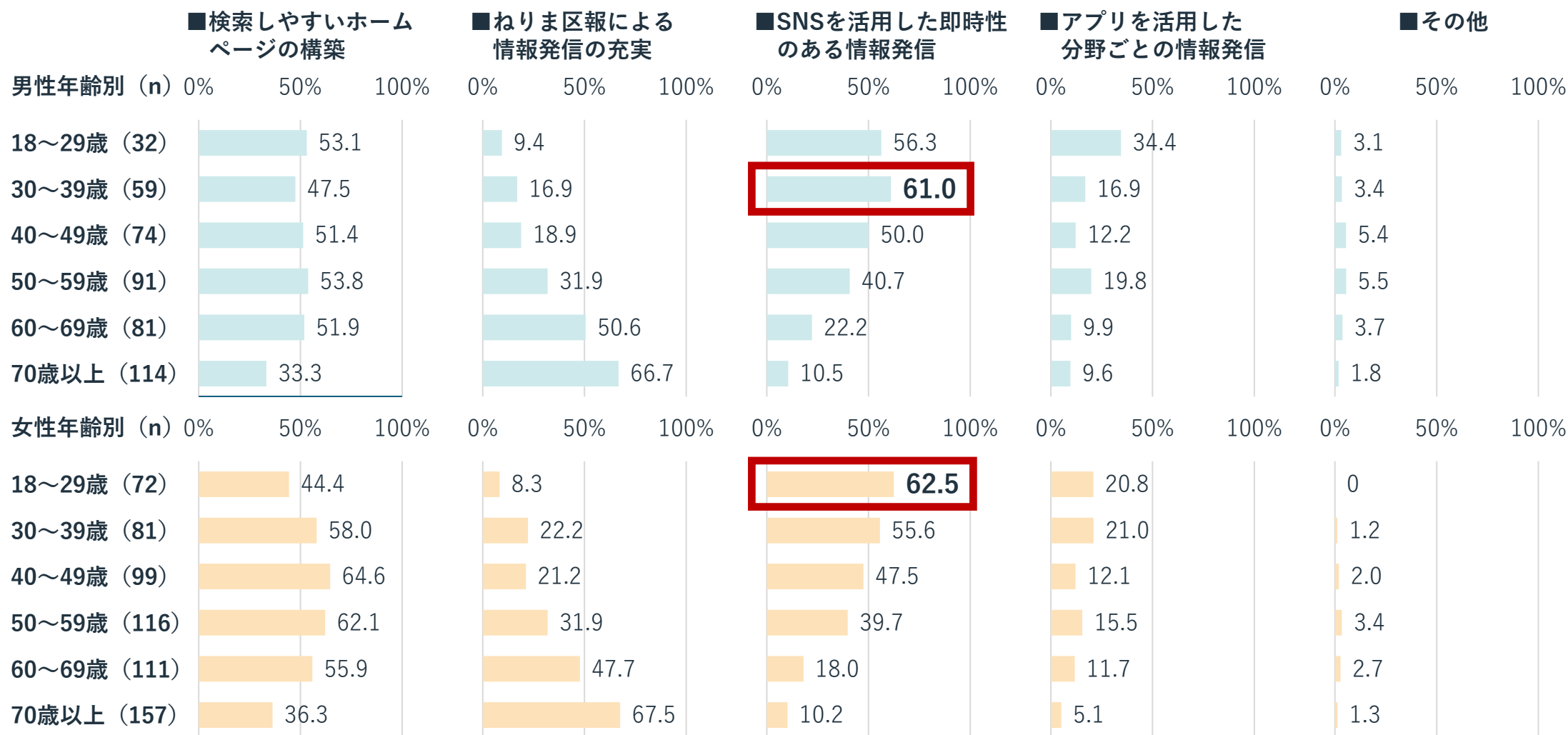
あなたが知っている練馬区公式SNSアカウントをお選びください（複数回答）



- 「LINE」はおおむね男性より女性の方が知っている割合が多い。「X」は男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が多くなっており、男性18～29歳で3割を超えている。
- 「知っていないものはない」は全体平均で6割を超えている。

2 令和6年度区民意識意向調査結果

今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきことは何だと思えますか（選択は2つまで）



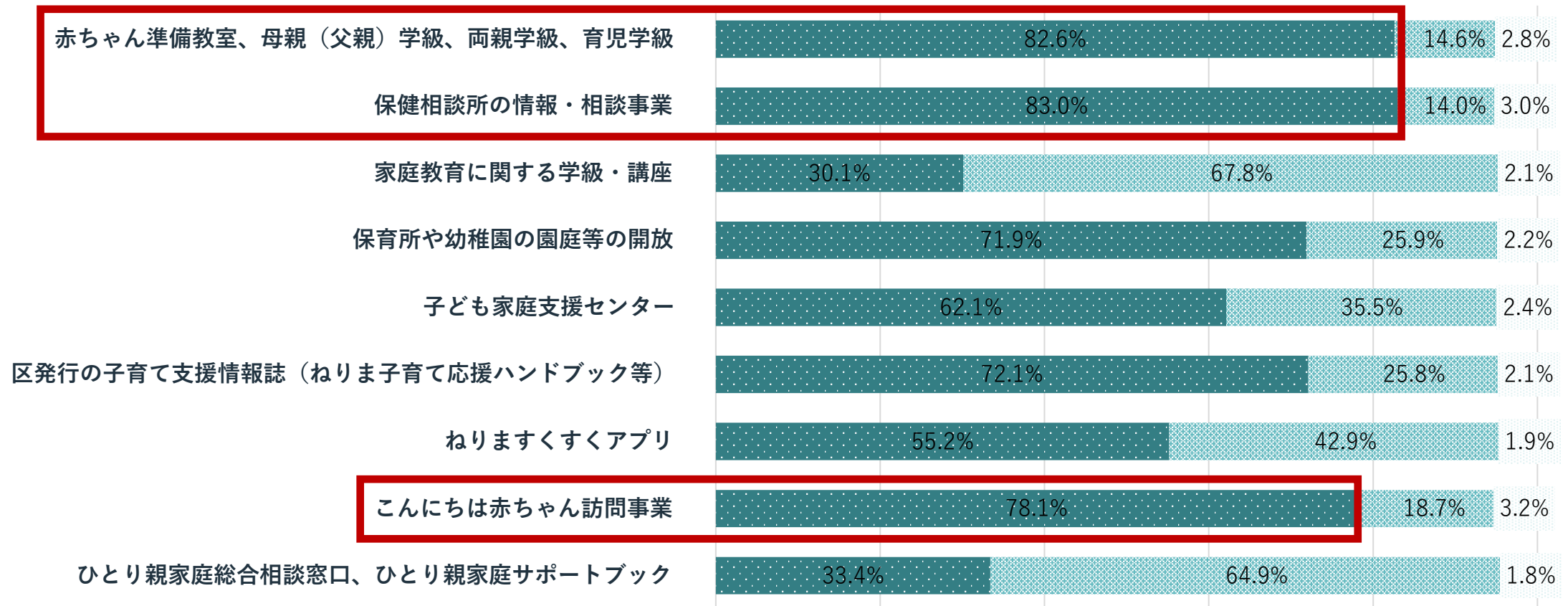
- 「検索しやすいホームページの構築」は女性40～49歳で6割半ばと多くなっている。
- 「SNSを活用した即時性のある情報発信」は、おおむね年代が下がるほど割合が多くなっており、男性30～39歳、女性18～29歳で6割を超えている。

3 第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画の策定に向けたニーズ調査結果

次の事業で知っているものをお答えください（各事業ごとに「はい」か「いいえ」を選択）

■ はい ■ いいえ ■ 無回答

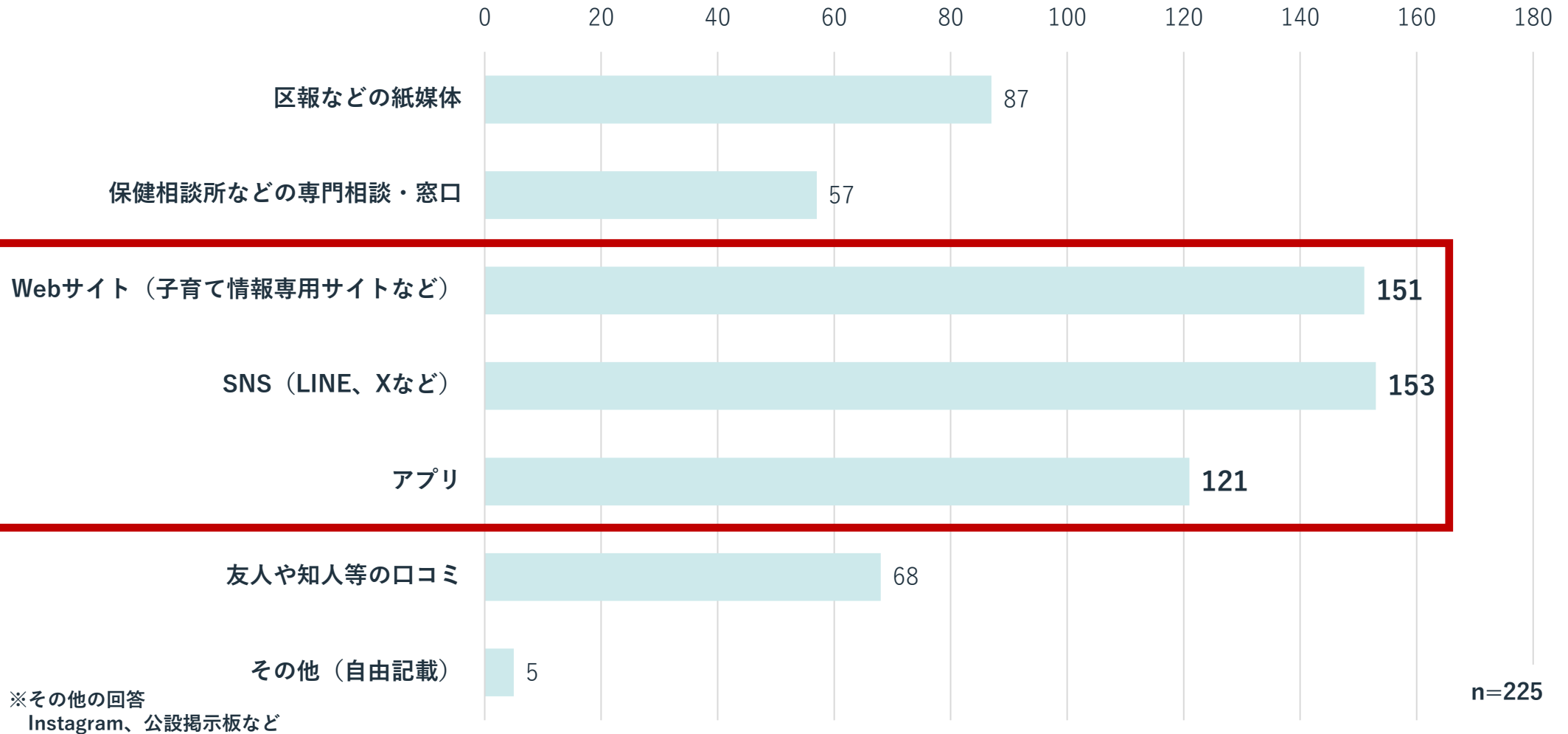
就学前児童家庭（0～6歳）の保護者（n=1,474）



● 「赤ちゃん準備教室、母親（父親）学級、両親学級、育児学級」、「保健相談所の情報・相談事業」、「こんにちは赤ちゃん訪問事業」では「はい」が75%以上となっている。

4 令和7年度ねりま子育て応援アプリ（ねりはぐ）アンケート結果

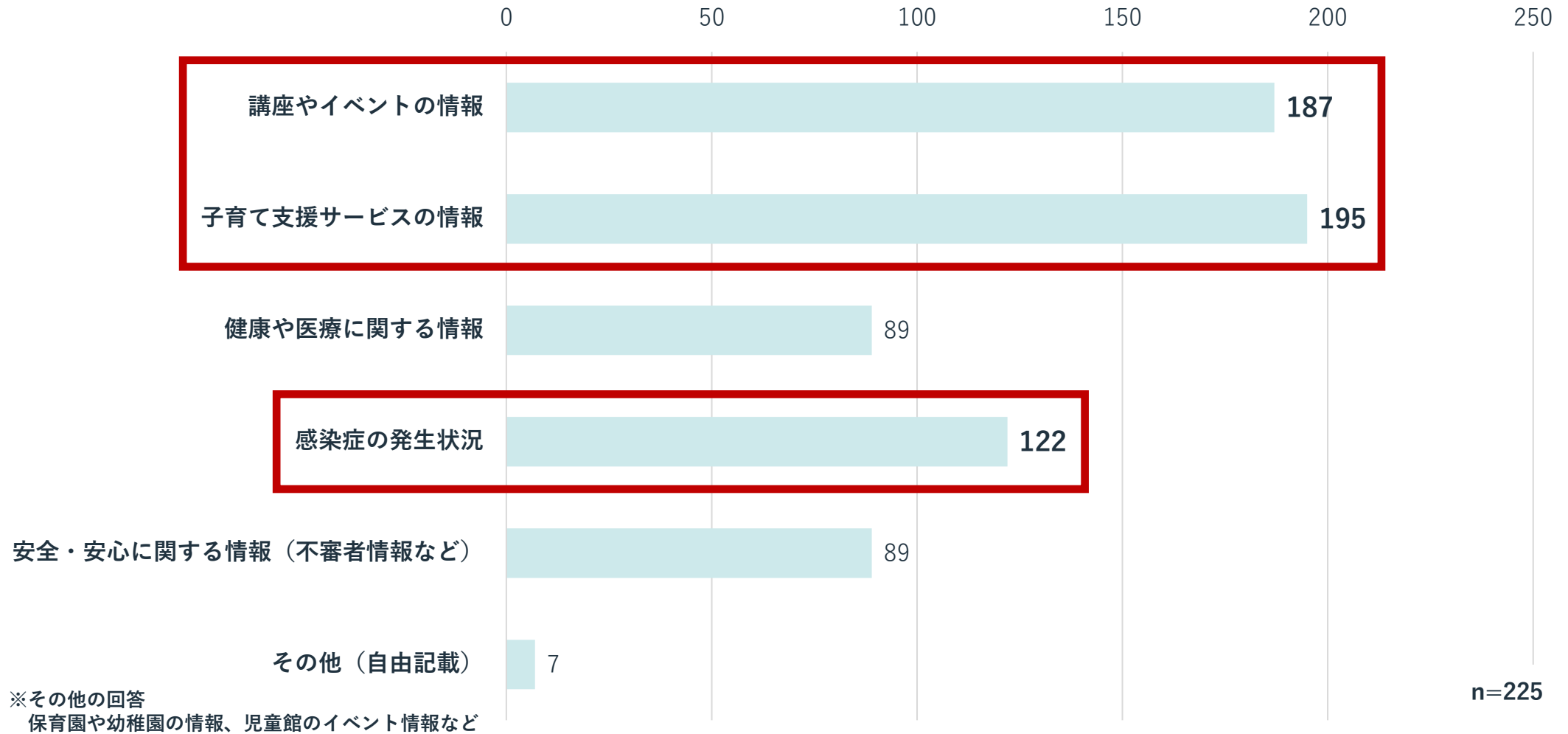
あなたは、子育て情報を何で入手したいですか（複数回答）



● 「SNS（LINE、Xなど）」（153件）が最も多く、次いで「Webサイト（子育て情報専用サイトなど）」（151件）、「アプリ」（121件）などの順となっている。

4 令和7年度ねりま子育て応援アプリ（ねりはぐ）アンケート結果

お知らせで配信して欲しい子育て情報を教えてください（複数回答）



- 「子育て支援サービスの情報」（195件）が最も多く、次いで「講座やイベントの情報」（187件）、「感染症の発生状況」（122件）などの順となっている。

5 子育てに関する情報発信の課題

- 子育てに関する情報が多過ぎて、必要な情報にたどり着くことができない。
 - ホームページのコンテンツの見やすさや、情報へのアクセスのしやすさを改善する必要がある。
-
- 区の公式SNSや、公式アプリの存在が区民に認知されていない。
 - 妊娠・出産等の手続きの際や、イベントでの周知など、より効果的な周知方法の工夫が求められる。
 - ニーズに合わせた情報発信の充実や、アプリの機能改善等により、利用者の利便性向上を図る必要がある。
-
- 区の迅速かつ正確な情報と、民間や個人が発信する魅力的で拡散力に優れた情報を、お互いの特徴を活かしながら、より効果的な情報発信につなげる方法はないか。



(参考①) 情報発信の取組事例

東京都こどもホームページ (<https://tokyo-kodomo-hp.metro.tokyo.lg.jp/>)

子どもたちに楽しみながら東京都の魅力や都政への関心を高めてもらうため、制作過程に子どもたちが参加し、子どもたちと一緒に作ったホームページ。年間閲覧数1億ページビューを突破し、現在では最大1日約7万人の子どもたちが利用するホームページに成長。



(参考②) 情報発信の取組事例

横浜市子育て応援アプリ「パマトコ」 (<https://pamatoco.city.yokohama.lg.jp/ctz/>)

横浜の子育てのすべてが集約された横浜市の公式アプリ。オンライン申請や予約、イベント検索、施設検索、予防接種スケジュール管理、子どもの成長の記録などに加え、お気に入り登録、パートナーとの情報共有が利用できる。

